

3 地域別の動向

(1) 北海道



北海道地域では、景気は持ち直しの動きが見られる。

- ・ 鉱工業生産は緩やかに持ち直している。
- ・ 個人消費は持ち直しの動きがみられる。
- ・ 雇用情勢は厳しい状況にあるものの、下げ止まりつつある。

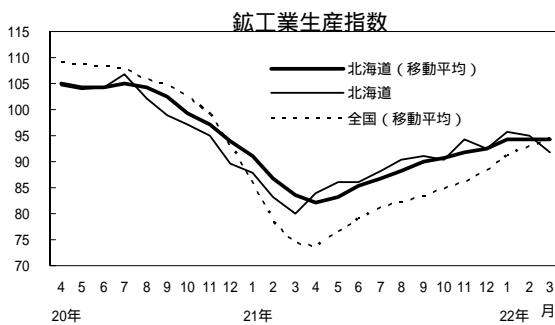
(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(は上方に変更、 は下方に変更)

前回調査からの主要変更点

	前回(平成22年2月)	今回(平成22年5月)	
観光	弱い動きが続いている	下げ止まっている	

1. 生産及び企業動向

- (1) 第一次産業は、生乳生産、水産物の水揚量ともに前年を下回っている。
1～3月期は、生乳生産は、乳製品向けが増加したものの、牛乳等向けが減少したため、総量では965,975tと前年比0.2%減となった。水産物の水揚量(主要8港)は、ほっけ、するめいかを中心に前年を下回っている。
- (2) 鉱工業生産は緩やかに持ち直している。
食料品は、自動販売機向けの需要の増加により清涼飲料水が増加した。パルプ・紙は、天候不順による不作により農作物梱包用の段ボール紙などが減少した。鉄鋼は、自動車向けの特殊鋼棒鋼や普通鋼棒鋼を中心に増加している。電気機械は、自動車やデジタル家電向けに、集積回路、シリコンウエハなどの電子部品が増加している。金属製品は、公共工事向けに橋梁が増加した。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷		在庫	
		10～12 月期	1～3 月期	1～3 月期	1～3 月期		
食料品	23.9	1.8	0.8	3.1	5.7		
パルプ・紙	10.7	2.3	1.1	0.4	6.4		
鉄鋼	8.6	14.9	3.0	1.3	7.9		
電気機械	8.4	6.4	3.7	5.9	1.8		
金属製品	8.0	1.2	4.6	5.7	5.2		
鉱工業	100.0	2.9	1.9	3.7	4.4		

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

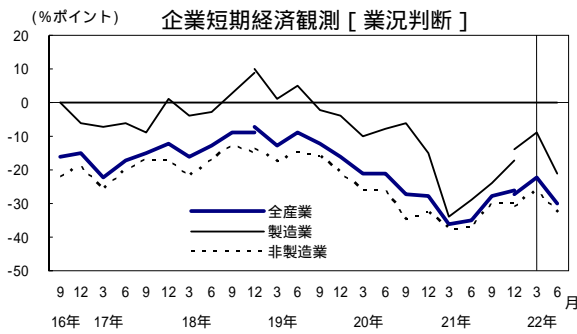
2. 1～3月期は速報値。

(備考) 1. 17年=100、季節調整値、北海道の最新月は速報値。

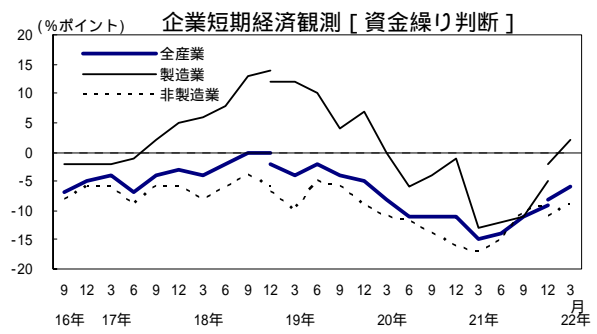
2. 全国及び北海道の大線は後方3か月移動平均。

(3) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が、資金繰り判断は「苦しい」超幅がそれぞれ縮小している。

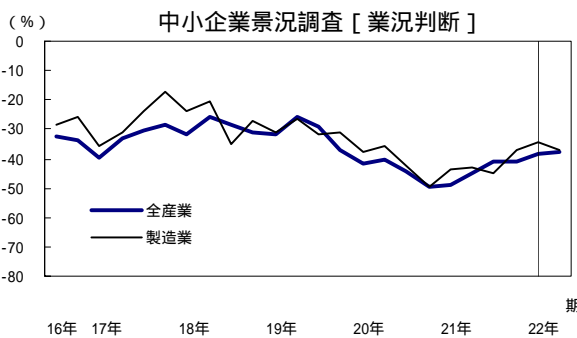
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。22年6月は予測。18年12月および21年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。18年12月および21年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。22年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(3月)[企業動向関連(現状)]

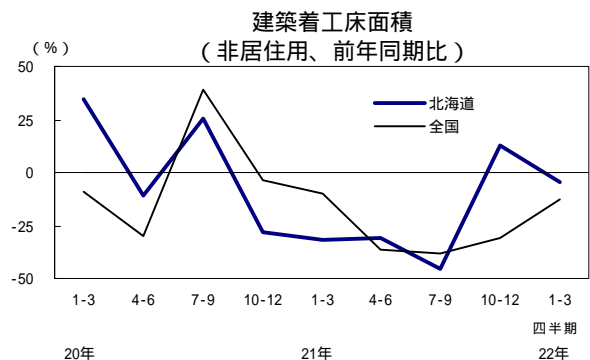
「平成22年度の公共事業が不透明なことから、大きな変化はみられない(その他サービス業[建設機械リース])」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(4) 21年度の設備投資は前年度を大幅に下回る見込みとなっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資(3月調査)]

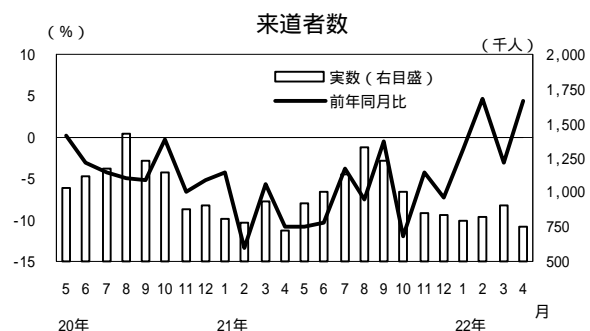
	(前年度比、%)	
	21年度実績見込み	22年度画
全産業	36.8(1.2)	18.1
製造業	51.1(0.9)	45.1
非製造業	29.9(1.9)	8.9

(備考)()は前回(12月)調査比修正率。電気・ガスを除く。



(5) 観光は、下げ止まっている。

来道者数は、1月は、スキー旅行等の需要が伸びたことなどから、低下幅が縮小し、2月は、雪まつりなどのイベントも盛況であり、21か月ぶりに前年を上回った。3月は、航空機の減便や機体小型化の影響もあり、前年を下回った。4月は、ゴールデンウィークの曜日並びの良さなどから前年を上回った。



(備考)北海道観光振興機構調べ。

(1) 北海道

2. 需要の動向

(1) 個人消費は持ち直しの動きがみられる。

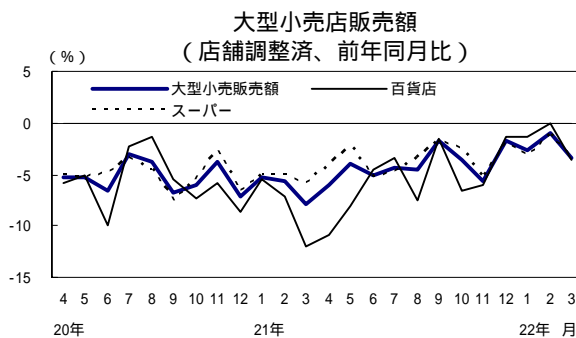
大型小売店販売額

百貨店は、1月は、天候の影響もあり初売りが低調になったことなどにより、前年比の減少幅が拡大した。2月は、雪まつりが盛況であったことや、春節期間を中心に外国人観光客が増加したこともあり、例年に比べて飲食料品の動きがよかったことから、前年比の減少幅が縮小した。3月は、昨年に比べて低温で降雪も多かったことなどから、春物衣料の動きが鈍く、前年比の減少幅が拡大した。日本百貨店協会によると、4月の売上高は札幌地区で前年同月比0.7%減、札幌を除く北海道地区で同14.9%増となっている。

スーパーは、飲食料品が堅調なことや、価格競争が厳しいものの、来客数が戻りつつあり、前年同期比の減少幅が縮小した。

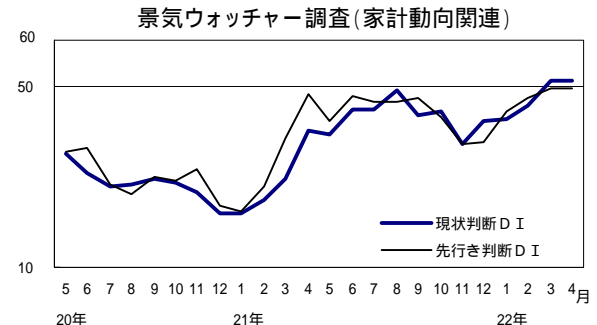
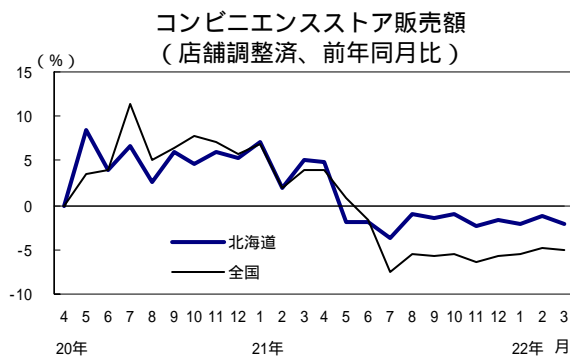
景気ウォッチャー調査(3月)[家計動向関連(現状)]

「客単価は徐々に下げ止まっており、底が見えてきたが、依然として国内ツアー客を中心に来客数が伸び悩んでいる。一方でアジアを中心とする外国人観光客は回復傾向にある(観光型ホテル)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



	(前年同期比、%)			
	21年4-6月	7-9月	10-12月	22年1-3月
大型小売店	5.1	3.5	3.5	2.5
百貨店	7.8	4.1	4.4	1.8
スーパー	3.9	3.3	3.2	2.7
乗用車	13.3	4.4	18.2	21.6
景気ウォッチャー	41.4	45.8	41.1	46.5

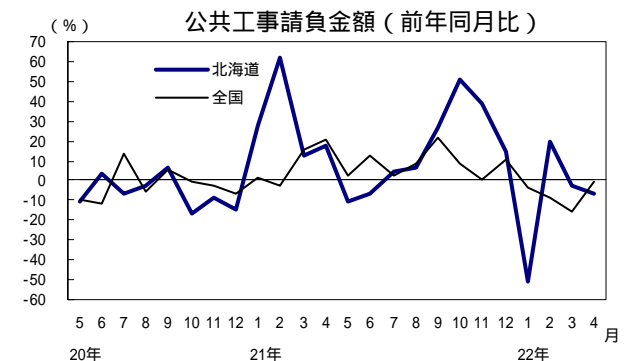
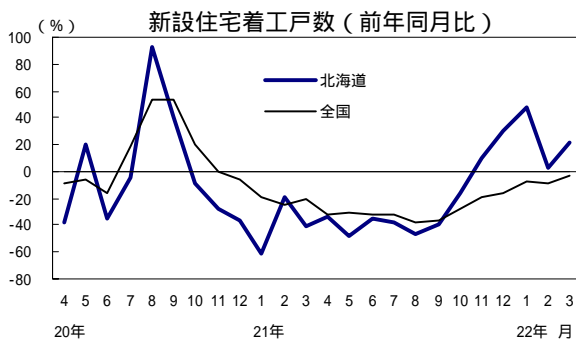
- (備考) 1. 大型小売店は店舗調整済。
 2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断D Iの3か月平均。
 3. 乗用車は乗用車新規登録・届出台数。



(2) 住宅建設は大幅に増加している。

持家、貸家が前年を上回ったことから、大幅に増加している。

(3) 公共投資は21年度累計で見ると前年度を上回っている。



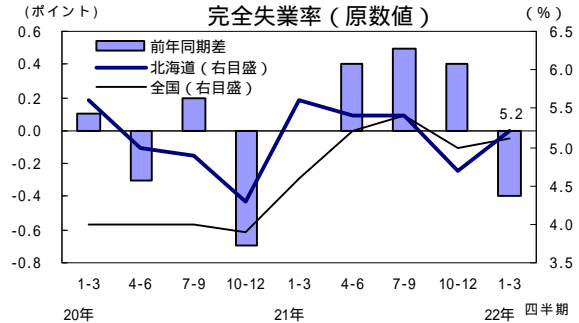
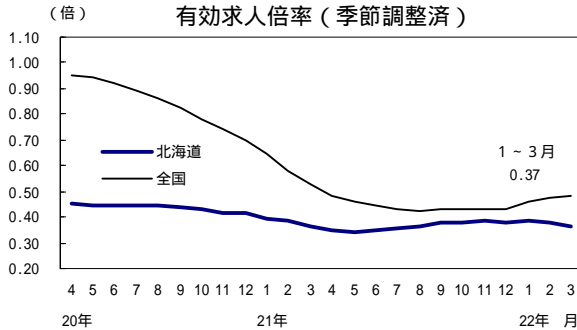
3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は厳しい状況にあるものの、下げ止まりつつある。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率(全数)、有効求人倍率(常用)ともにおおむね横ばいとなっている。完全失業率は前年同期を下回っている。

有効求人倍率の動きには平成19年末の北海道労働局の求人数の計上方法変更も影響していると思われる。



景気ウォッチャー調査(4月)[雇用関連(現状)]

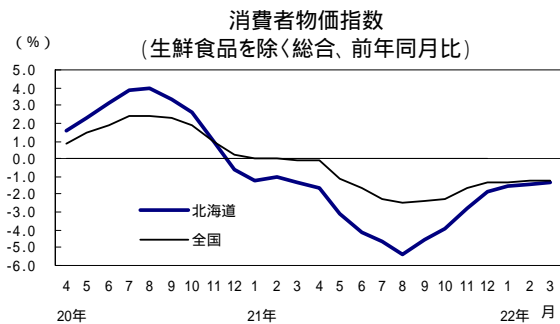
「前年に比べて、求人情数が22%ほど増加している。特に、福祉・介護事業と清掃・ビルメンテナンス・警備関連事業など、事業者向けサービス業の一部が大きく増加している。また、コールセンターや派遣、道内外の業務請負などの受託系の事業も、ここ数か月と同様に前年比で増加傾向にある(求人情報誌製作会社)」など「やや良くなっている」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数は大幅に減少し、負債総額は減少している。

(3) 消費者物価指数は前年比の下落幅が縮小している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	21年4-6月	7-9月	10-12月	22年1-3月	22年4月
倒産件数	156	108	116	109	45
(前年比)	16.6	43.2	38.6	37.7	19.6
負債総額	719	404	398	250	221
(前年比)	63.6	42.7	30.1	77.0	51.4



景気ウォッチャー調査(4月)[合計(特徴的な判断理由)]

<現状>

・引き続き国内からの観光入込は今一つだが、台湾・韓国等の東アジアからの観光入込はますますであり、低水準ではあるが、全体の観光入込が前年を上回る月が続くようになってきた(観光名所)。

<先行き>

・全体の様子からは景気が回復傾向にあるとは思えない。特に、当地は農業生産と公共工事の量に大きく影響されることもあり、今後の回復に希望が持てない(乗用車販売店)。

景気ウォッチャー調査

(合計：家計動向関連+企業動向関連+雇用関連)

